

金沢大学病院皮膚科で診療を受けた患者さんへ 研究協力をお願いについて

現在、金沢大学附属病院で過去に皮膚疾患の診療が行われた患者さまを対象に臨床研究を行っています。多くの患者さんが研究の対象となるため、金沢大学附属病院ウェブサイト上の掲示でお知らせしております。

本研究では、乾癬、アトピー性皮膚炎、強皮症、皮膚腫瘍などの皮膚疾患において、血液や皮膚組織中に存在するキラルアミノ酸（L 体・D 体）プロファイルを網羅的に測定し、疾患との関連性を明らかにすることを目的としています。解析には、診療や手術の過程で得られた検体や臨床情報（診療録等）を使用します。この研究ではこれまでに行われた検査や治療内容のデータ、保存された試料（血液・尿・皮膚組織）を使いますので、患者さんの負担はありませんし、今後の治療方針にも影響しません。また費用の負担もありません。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の相談窓口へお問い合わせ下さい。ご連絡がない場合においては、ご了承をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、この研究は、倫理審査委員会の審査を受け、研究責任者の所属機関の長の承認を得て行っているものです。

1. 研究の対象

1980 年 4 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日までに、金沢大学附属病院皮膚科において皮膚疾患（乾癬、アトピー性皮膚炎、強皮症、皮膚腫瘍など）と診断され、診療に伴って皮膚組織・血液・尿のいずれかの検体が採取された方。

2. 研究の概要

研究課題名	皮膚疾患におけるキラルアミノ酸プロファイルの解析
研究期間	承認日 2025 年 8 月 20 日 ～ 2030 年 3 月 31 日
目標数	全体 400 例

皮膚のさまざまな病気では、その原因や進行に体内の状態が深く関与している可能性があります。例えば、アトピー性皮膚炎は患者数が近年増加しており、日本における患者数は 2017 年で約 51 万人、2020 年では推計で 120 万人以上に達することが報告されています。乾癬も日本国内に約 40～60 万人の患者さんがいると推計される慢性の皮膚疾患です。アトピー性皮膚炎や乾癬では繰り返す皮膚のかゆみや湿疹のため、日常生活に支障をきたすことがあります。肌を見られる心理的ストレスや治療の負担も大きくなります。また、強皮症（全身性硬化症）のような膠原病では皮膚が硬く厚くなるだけでなく、内臓の障害を引き起こすこともあります。さらに、皮膚腫瘍（悪性黒色腫など）の中には転移して命に関わるものもあります。このように、皮膚の病気は患者さまご本人の生活の質（QOL）を低下させるだけでなく、治療や療養に長期間を要するため社会全体にとっても大きな負担となり得ます。しかし、これら皮膚の病気がなぜ起こるのか、なぜ進行するのかという仕組み（メカニズム）は十分には解明されていません。

最近の研究の進歩により、「キラルアミノ酸」という物質が皮膚の病気の発症や進行に関係

している可能性が注目されています。ヒトの体には 20 種類のアミノ酸がありますが、同じ種類のアミノ酸でも L 体と D 体と呼ばれる左右対称の鏡のような構造の違いがあります。従来はヒトの体内には L 体のアミノ酸しか存在しないと考えられてきました。しかし、最近では D 体のアミノ酸も体内で作られていて、いろいろな生体の働きや病気に関係していることがわかってきました。この L 体と D 体を区別したアミノ酸を「キラルアミノ酸」と総称します。私たちの研究グループは、腎機能が低下した患者さまにおいていくつかのアミノ酸の D 体が増加していることを明らかにしました。ただし、皮膚の病気の患者さまの体や皮膚の中でキラルアミノ酸がどのように変化しているかは、まだよく分かっていません。

そこで、この研究では前述の皮膚の病気（乾癬、アトピー性皮膚炎、強皮症、皮膚腫瘍）の患者さまを対象として、診断や治療のために行われる皮膚の手術・生検の際に通常廃棄される皮膚組織の一部を研究用に採取し、その中に含まれるキラルアミノ酸の量を調べます。同時に、血液と尿に含まれるキラルアミノ酸の量も調べます。皮膚組織中のキラルアミノ酸と血液・尿中のキラルアミノ酸の量を比較することによって、特定のキラルアミノ酸がこれら皮膚疾患に関係しているかどうかを明らかにできると考えられます。この研究によって、皮膚の病気がなぜ起こるかという原因や、病気がどのように進むのかといった新たな仕組みの解明が期待されます。

3. 研究の目的・方法について

本研究では、あなたがこれまでに皮膚の病気に対して通常の診療として受けられた検査（皮膚の状態の診察や血液・尿検査、皮膚生検など）において提供された皮膚組織、血液、尿を用いて、これらに含まれるキラルアミノ酸の量を測定します。すでに得られている検査データとあわせて解析を行うことで、あなたの皮膚疾患に関連するキラルアミノ酸の変化を明らかにすることを目的としています。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療の際に得た試料・情報を使用します。

試料 皮膚組織、血液、尿（診断・治療目的で採取された余剰試料）

情報 電子カルテ等に記録された診療情報（年齢、性別、検査結果、診断名、治療歴など）

5. 外部への試料・情報の提供・公表

提供された試料は、金沢大学において個人が特定できない様に匿名化を行い、KAGAMI株式会社へ提供されます。

6. プライバシーの保護について

この研究にご参加いただいた場合、提供された試料や診療情報などのこの研究に関するデータは、個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されますので、あなたの個人情報が外部に漏れることは一切ありません。

この研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがあります。このような場合、あなたの個人情報などのプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。

7. 研究組織

（１）金沢大学における研究実施体制

研究責任者

松下貴史 金沢大学医薬保健研究域医学系 皮膚分子病態学 教授

研究分担者

岩田恭宜 金沢大学医薬保健研究域医学系 腎臓・リウマチ膠原病内科学 教授
中出祐介 金沢大学附属病院 検査部 副臨床検査技師長
濱口儒人 金沢大学医薬保健研究域医学系 皮膚分子病態学 准教授
前田進太郎 金沢大学附属病院 皮膚科 講師
大石京介 金沢大学附属病院 皮膚科 助教
北野 佑 金沢大学附属病院 皮膚科 助教
伏田奈津美 金沢大学医薬保健研究域医学系 皮膚分子病態学 助教
清水恭子 金沢大学附属病院 皮膚科 医員
水牧貴恵 金沢大学附属病院 皮膚科 医員
藤井 皓 金沢大学附属病院 皮膚科 医員
西尾次郎 金沢大学附属病院 皮膚科 医員
工藤健太 金沢大学附属病院 皮膚科 医員
服部奏子 金沢大学附属病院 皮膚科 医員

（２）共同研究機関と研究責任者

なし

（３）研究に関する業務の委託

機関名：KAGAMI 株式会社

試料・情報の管理責任者氏名：三田真史

提供される項目 試料：皮膚組織、血液、尿

委託業務内容：キラルアミノ酸分析、キラル乳酸分析

８．本研究に係る資金ならびに利益相反について

この研究は基盤研究経費、科学研究費補助金、奨学寄附金などを用いて行われます。また、この研究の研究担当者は、この研究において企業等との間に利害関係はありません。この研究の研究担当者は、金沢大学の規定に基づく利益相反審査機関へ自己申告し、その審査と承認を得ています。従って、この研究の研究担当者は、この研究の実施の際に個人的な利益のために専門的な判断を曲げるようなことは一切いたしません。

９．研究への不参加の自由について

試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、2026年12月31日までに下記の問い合わせ先までお申出ください。なお、研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

１０．研究に関する窓口

この研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

研究責任者 金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚分子病態学（附属病院皮膚科） 松下貴史

相談窓口担当者 金沢大学 附属病院 皮膚科 松下貴史

金沢大学 附属病院 皮膚科 松下貴史

電話 076-265-2343

Fax 076-234-4270